

私は長野県長野市の川中島という町に生まれ、そこで18年間を過ごしました。

「川中島」はその地名のとおり、2つの川（信濃川と犀川）に挟まれたところ  
です。山と川に囲まれ、夏に桃畑が甘い香りを漂わせ、秋には稲穂が夕陽に輝く自然の豊かな地域です。

私はそんな町の風景の美しさを享受し育ってきました。今東京で暮らしていても  
思いもかけず背後に懐かしい風景が立ち現われることがあります。

私の描く風景は匿名のものばかりです。膨大な緑が幾重にも重なり、その上を青い風が  
吹き抜けるそんなどこにでもある風景だけが私を捉えて離しません。描こうとするのは  
特定の何かではなく、既に私の中に沈積した何かであってそれは明確な形、特定の場所  
の姿を帯びてはいないのです。夢が現実より、ともすればリアルであるように、私は時  
の経過と共に変質しどこかに隠れ、見失った自分の場所を確かめ、更にそこに帰還しよ  
うとしているのかもしれない。細部を失い、わずかな色彩を用いてこそ豊かな記憶へ  
と帰って行くことが出来るように感じるのです。

表現が自らを確かめていくことなら、繰り返しわずかな色彩と形を借りてゆっくりと自  
分を組成した記憶の場所に戻って行こうと思っています。

2012年5月

馬場俊光

BASE GALLERY  
103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町1-1-6  
小浦第一ビル1F  
Tel 03-5623-6655  
Fax 03-5623-6656  
info@basegallery.com